

【解答例】

①について

私にとって「お金」とは自分が日々生きていき、人生の目標を実現していくための重要な手段である。問題文でもあるように、よくわが国では「人生の幸福はお金では買えない」という言い方がされるが、私はこのような言い方は正しくないと思う。「幸福」そのものはどこにも売っておらず、これをお金で買うことはできない。しかし、人々がそれぞれ思い浮かべる「幸福」な状態を実現するためにはほとんどの場合、お金が必要になる。大多数の人は「幸福」は最低限の衣食住と健康が確保されることを条件とすることに同意すると思われるが、これを実現するには最低限のお金が必要である。加えて、自分の目標が実現できることを幸福と考えるならば、そのような目標を実現していく過程ではやはりお金が必要である。このように、お金はそのものが幸福に結びつくのではなく、幸福を実現するための条件を準備するための不可欠な手段であると考えて。「人生の幸福はお金では買えない」のではなく、「人生の幸福そのものはお金では買えないが、幸福という目標を実現するための手段としてお金が必要である」という言い方がより正確だろう。言い換えれば、お金は「幸福」のための必要条件である。もちろん、お金は「幸福」の十分条件ではなく、お金があっても「幸福」を実現できるかどうかはその人次第であることはいままでもない。

私は大学の学費は両親から出してもらったが、それ以外の教科書代や友人との交際費、また国家公務員試験受験のための教材費などは自分で家庭教師などのアルバイトをして賄ってきた。友人の中には必要なお金を全部両親から出してもらったり、またはアルバイトで収入を得ることに夢中になってあまり大学に来ない人もいたが、私は上に述べたような考えから、「大学で知識を身につける」「友人との時間を大切に」「自分のキャリア形成のための能力を身につける」といった自分の目標を実現するための手段の一つとして最低限必要なお金を計算し、それを自分で稼ぐことにこだわってきた。このように目標を実現するための手段としてお金を考えてきたことで、「目標を実現するためにはどのような生活を送ればいいのか」が明確になり、結果として多くの目標を達成し充実した大学生活を送ることができたと感じている。

②について

私は金融教育は広い意味での「生活」のための教育として行われるべきであると考えて。近年のペイオフ解禁や金融商品・サービスの多様化などにより金融を取り巻く環境は大きく変化しており、自己責任に基いた行動が求められるなど、これまでの金融に関する知識では対応できない場合も多い。そのため、社会を支える金融の基本的な仕組みについて、次代を担う世代に早い時期から正確な知識を身につけてもらうことには大きな意義がある。また、「お金を稼ぎ、それを使っていくこと」の重要性を教育現場で教えていくことは、早い時期から将来どのような職業を選択し、どのような生活を送っていくべきかを考えさせることにもつながる。したがって適切な金融教育が現在の「フリーター」「ニート」などの問題を解決していく一つの手段となることも期待される。

ただ、私は狭い意味での金融教育、つまり資金管理・資産運用の側面を重視して金融商品・サービ

スに関する教育のみを行うことには否定的である。①で述べたように私は「お金」を自分が日々生きていき、人生の目標を実現していくための重要な手段と考えている。したがって、資金を管理し資産運用を行うことは、あくまでも日常生活や自分の目標の実現といった他のことのために「お金」を使う上で必要であるということが認識されなければならない。もしそれが十分に認識されないままに資金管理や資産運用に関する教育だけが行われるようでは、金融教育を受ける生徒は「金融の目標はお金を増やすことだ」という偏った認識を抱くようになるだろう。「お金」に関する否定的なイメージの強いわが国でこうした狭い意味の金融教育のみが行われれば、生徒の多くは金融に対してますます否定的なイメージを抱き、一部の生徒は金融をマネーゲームとして捉えて「金もうけ」のみを目標に行動することになりかねない。

したがって、金融という言葉に対して抱かれがちな資金管理・資産運用といった知識を教える狭義の金融教育ではなく、広義の「生活とお金との関係についての教育」としての金融教育を行っていくべきである。場合によっては「金融教育」という言葉にこだわる必要もなく、「生活」のための教育の一環として「自分の将来の生活を充実して過ごしていくためにどのようにお金を使わなければならないか、そのためにどのようにお金を稼ぎ増やしていくか」を学校現場で生徒に教え考えさせていくことが求められる。このような教育を行っていくことで、自分自身で「お金」に関する適切な判断を行い充実した生活を送っていくことのできる自立した消費者が育っていき、結果として自己責任が求められる、近年の金融を取り巻く環境の変化にも対応していくことが可能になると考える。

以 上